



故東京帝國大學名譽教授澤村 貞

勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和六年一月十三日

内閣總理大臣臨時代理

外務大臣男爵幣原喜重郎



内

閣

昭  
和  
六  
年  
一  
月  
十  
三  
日  
裁  
可

昭  
和  
六  
年  
一  
月  
十  
三  
日  
内  
閣  
書  
記  
官

内閣書記官

内閣總理大臣 賞勳局總裁

故東京帝國大學名譽教授從三位勳三等  
澤村真儀ハ明治三十五年東京帝國大  
學農科大學助教授ニ任セラレ後教授  
ニ進ミ大正十五年官ヲ辭ス其ノ間蘆蓄  
ヲ傾ケテ家畜飼養、酪農學及食物化  
學等ヲ講シ學生ノ薰陶後進ノ誘掖ニ  
盡瘁ス又多年同大學附屬農業教員

賞勳局

養成所ノ主任又ハ主事トシテ優良ナ  
ル教員ノ養成ニ努メ東京農業大學評  
議員、教授トシテ或ハ經營ニ或ハ實際  
教授ニ盡カシ又女子教育ニ力ヲ致シ  
今日ノ女學校ニ於テ食品化學並農業  
園藝ノ普及ヲ見ルニ至リタルハ其ノ力ニ  
負フ所多シ其ノ他農業教育研究會  
ノ會長又ハ副會長トシテ竭スコト三十  
年今ヤ會員三千ヲ有シ農業教育  
ナル雜誌ヲ刊行シテ活躍シツ、アリ殊ニ

食物ノ消化、食物ノ營養ニ關シ學術  
的ニ研究發表シ或ハ製茶ノ學術的  
試験ヲ企テ以テ茶業ノ發達ヲ圖リ又  
夙ニ大日本農會參事、理事、理事長ニ  
就任シ後副會頭ト爲リ前後約三十  
年間能ク制度ノ改革事務ノ刷新ヲ計  
リ我國農業改善ニ貢獻シタル等其ノ  
功績顯著、者ニ候處本月四日死去  
セル趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以テ旭日  
中綬章ヲ加授セラレ度此段允裁ヲ仰ク  
内閣

追テ本件擬敍勲等ニ付テハ主務  
省ト協議濟ニ有之候

故東京帝國大學名譽教授

從三位勲三等澤村 真

敘勲二等授瑞寶章

右ハ明治二十年東京農林學子校ヲ卒業シ今年文部省ニ奉職シタリシガ二十六年高知縣農學校長ニ任セラシ又轉ニ石川縣農學校長トナリ地方農業教育ノ爲ニ努力スル所アリ後明治三十二年東京帝國大學農科

文部省

大學附屬農業教員養成所講師ヲ囑託セラレ中央教育界入り今世五年農科大學助教授ニ任セラシ育英ニ精勵スルト共ニ益々斯學研鑽ノ功ヲ積ミ殊ニ瘡癩見ノ軟化病ノ原因ヲ明ニシ其ノ化學的研究ヲ大成シテ農學博士ノ學位ヲ授ケラシタリ斯クテ三十九年文部省視學官ニ兼任セラシ卓越セル學識ヲ以テ視學事務ノ上ニ貢獻スル所亦甚ガ

多ク斯界ノ令人ニ對スル期待愈々大ナルモノアリシガ四十三年農藝化學研究ノ為英國及獨國ニ留學シ命ゼラシ專念研學ノ傍ラ白耳義ニ於テ開催ノ萬國農事會議ニ參列シテ我國代表ノ任ヲ盡シ翌四十四年歸朝ノ上教授ニ陞任シ農藝化學第三講座擔任ヲ命ゼラタリ爾來其ノ滋蓄ヲ傾ケテ家畜飼養酪農學及食物化學等ヲ講シ學生ノ

文 部 省

薰陶後進ノ誘掖ニ努メ又常ニ學術ノ研究ニ精進シ斯學ノ權威者トシテ最モ重キヲナシ前後二十有七年間大學教育ノ為ニ盡瘁シタシん功勞真ニ著大ナルミナラズ更ニ大正二年文部省督學官ヲ兼テ我國農業教育ノ視察監督ノ任ニ膺リ斯教育ノ發達ニ寄與シタシ亦大ナルアリシガ大正十五年願ニ依リ其ノ官ヲ免ゼラレ次テ東京帝國大學名譽

教授ノ名称ヲ授ケラレタリ  
同人ノ功績ハ教育界ノ學界並ニ  
産業界ニ通ジテ頗ル多方面ニ  
亘レドモ就中特色アルモノトシテハ農  
業教員ノ養成ニ盡瘁シタルヲ  
食物化學ヲ學問トシテ樹立シ且  
其知識ヲ普及シタルコト及製茶  
ニ関スル研究業績トシテ舉ケルヲ得  
ベク今之が大要ヲ記セバ次ノ如シ  
先ツ農業教員養成並ニ其他教育

文 部 省

関係ノ事蹟トシテハ明治三十二年  
以來今日ニ至ルマテ前記農業教員  
養成所ノ主任又ハ主事トシテ多年  
優良ナル教員ノ養成ニ努メ同人ノ  
門下ヨリ出デテ現ニ農學校校長ニ  
モノ養成所ニ於テ八十餘名大學  
ニ於テ五十餘名ヲ算シ其ノ數實  
ニ全國約三百ノ農學校ノ畧ニ半數  
ニ相當スルモノアリ 其他教育ニ関スル  
業績トシテハ明治二十六年以來今日

ニ至ルマデ多年東京農業大學、関係の評議負ヒテ教授トシテ或ハ經營ニ或ハ實際授業ニ多大ノ盡瘁ヲナシ又東京高等師範學校、東京女子高等師範學校、東京女子專門學校、實踐女學校、青山女學院成徳女子商業學校等ニ講師トシテ在職シ就中女子教育ニ最モ力ヲ致シ今日、女學校ニ於テ食品化學並ニ農業園藝ノ普及ヲ見ルニ至リタルハ

文部省

同人ノ力ニ負フ所甚ダ多キヲ認め  
其他農業教育研究會ニ於テハ同人之レガ會長又ハ副會長トシテ盡力スルコト三十年能ク我國唯一ノ農業教育研究機關トシテ其ノ職能ヲ發揮シ今ヤ會員三千ヲ有シ機關雜誌「農業教育」ヲ設刊シテ盛ニ活躍シタリ尚或ハ教員檢定試驗委員トシテ農業科教員ノ供給上ニ寄與シ或ハ農業教科書編纂委員

長トシテ多大ノ苦辛ヲ重クテ其ノ任ヲ完ウニ終始一貫農業教育ノ普及徹底ニ努メタリ

同人ノ食物化學ノ研究業績ニ直接國民文化ノ向上ヲ促シ家庭生活ニ大ナル自覺ヲ與ヘタルモノニシテ何人モ其ノ惠澤ニ對シ感謝ヲ惜ムベカラザル所ナリトス。先ヅ食物消化ニ關スル研究ニツキテ述ブレハ食物ノ榮養ニ關スル問題ハ最近其ノ知

文 部 省

識稍廣ク普及ニシタレドモ其ノ學術的根據ハ實ニ同人ノ研究ニ俟テモ多ク即チ夙ニ國民保健ノ問題ノ研究ニ從ヒシ同人ハ始メ次ノ諸研究報告ヲ及發表シタリ

腹液ノ消化酵素ニ関スル研究 (農學會報 第五十六號)

健康體ニ於ケル消化酵素ノ効果 (同上 第五十三號)

酒精ノ草食獸消化力ニ及ボス影響 (同上 第五十二號)

アミドノ消化吸收ニ関スル研究 (同上 第五十四號)

健康動物消化力ニ對シテアスターゼノ働き (西原忠事試驗場 報告 明治四十二年)



右ニ依リ消化ノ理論ヲ確立シタル後同人  
ハ本邦ニ於ケル重要食品ノ消化吸  
收率ヲ測定シテ爲メ更ニ研究ヲ進  
メテ其ノ成績ヲ次ノ如キ學術報告  
トシテ發表サレタリ

米ノ品質ニ関スル研究 (農學會報 第五十一號)

半搗米糠入米及大麥ノ消化試驗 (全 第二十四號)

外國米ノ消化ニ関スル研究 (全 第二十五號)

玄米ノ消化カ自米ニ方ル理由ニ就テ (全 第二十九號)

自米玄米甘藷昆布椎茸ノ消化試驗 (全 第二十九號)

文 部 省

之ニ依リテ米ノ精白ノ問題ハ確定セラレ  
半搗米ガ栄養養上ノミナラズ養分ノ  
經濟上ニモ最モ合理的ナルトヲ證明  
セリ 而シテ同人ハ之等知識ノ普及ノ  
必要ナルヲ痛感シ女子家事教育ノ  
發達ニ寄與センガ爲メ前記ノ如ク自ら  
女子教育ニ參加シタルノミナラズ屢ニ夏  
期講習會ニ於テ講師トシテ指導提  
擧ニ努メタリ 又

食物化學 (大正七年)

營養學

(昭和四年)

人生と食物

(三年)

食物と經濟

(大正七年)

營養と食物

(十四年)

食物講話

(十五年)

營養講話

(昭和二年)

食物辭典

(三年)

等學術的著書ノミナラズ内容通俗的ナル良書シ著シテ知識ノ普及ニ努ムルトコロアリタリ 同人ハ右ノ根本的學

文 部 省

術研究シナモタル外食物ニ関スル各種ノ研究ヲ完成シ之等ヲ總括シテ食物化學ノ體系ヲ樹立シ學術上不滅ノ功績ヲ遺シタルモノナリ 次ニ製茶ニ關スル研究ニツキテハ製茶が本邦ノ重要輸出品ナルニ拘ラズ其ノ製造原理ノ未知ナル點多ク且ツ改良ニ事斯カラザルヲ感シ既ニ明治四十一年茶ノ製造ニ関スル學術的試驗ヲ企テ引續キ左ノ如キ學術的研究ヲ發表セリ

茶ノ製造ニ關スル研究

(西原農事試驗場報告  
明治四十一年)

茶葉ノ糖分含量ニ關スル研究(左)

茶葉ノ發育ニ伴フ化學的組成ノ變化(明治四十年)

製茶ニ關スル化學的研究(大正八年)

茶葉ノ酵素ノ活性ノ失フ溫度(明治四十二年)

茶業ノ發達今日アルハ實ニ同人ノ研究

ニ負フ所多ク其ハ本邦重要産業ニ

有益ナル影響ヲ興ヘタル功績ハ特筆

ニ値スルモノト謂フベシ

尚同人ハ夙ニ大日本農會參事、理事

文 部 省

及理事長ニ就任シ更ニ昭和三年總

裁宮殿下ノ御依囑ニ依リ副會頭

トナリ前後の三十年間能ク從來ノ

制度ヲ改革シ事務ヲ刷新シ以テ

農會ノ基礎ヲ確立シ我國農業改

善ニ貢獻シタリ其他或ハ博覽會

審査委員トナリ或ハ茶業組合中央

會特別議員トナリ斯界ノ啓發指

導ニ熱心盡力シん功亦没スベカラザル

モノアリ

斯、如ク同人ハ我國農學界ノ重鎮  
トシテ其ノ研究ノ範圍甚ク廣ク從テ  
多方面ノ事業ニ關與シ功績洵ニ  
顯著ナルヲ確認ス然ルニ頃者ノ病ニ  
罹リ加療中ノ處遂ニ本月四日ヲ以テ  
薨去セリ庶幾ハ此際上述ノ功ヲ録  
セラシ特ニ生前ニ遡リ頭書ノ通敘勲  
ノ榮ヲ與ヘラレシコトヲ茲ニ謹テ奏ス

昭和六年一月九日

文部大臣田中隆三



文部省

學術研究報告

一 鱗翅類の消化酵素に關する研究	全	農科大學學術報告 第四卷 第四号
一 腸液の消化力に就て	全	
一 柿實の人工成熟に就て	全	
一 微生物によるマンナーの液化に就て	全	
一 ホルタルテハイドのペプシンに對する作用	全	
一 軟化病の研究	全	第五卷 第四号
一 糠味噌の細菌に就て	全	第六卷 第二号
一 軟化病の大桿狀菌に就て	全	第四号
一 蚕兒病原菌に就て	全	第七卷 第一号
一 納豆の微生物に就て	全	
一 バチルスナットに就て	全	農科大學紀要 第五卷 第二号
一 健康動物の消化力に對し多量アスターゼ働きの	全	第三号
一 茶の製造に關する試験	全	西原農事試験場報告 明治四十一年
一 茶葉の糖分量に關する試験	全	
一 茶葉の發育に伴ふ化學的組成の変化	全	四十年
一 製茶茶に關する化學的研究	全	大正八年
一 茶の製造に關する試験(其二)	全	明治四十二年
一 茶葉の酵素の活性と失ふ温度	全	
一 蕎麥に「ミウレン」の存在に就て	全	農學會報 二五号 二六号
一 蕎麥の水溶性蛋白質に就て	全	二五号 二六号
一 澱粉の糖化及其糊液の粘度と澱粉粒の形態	全	一九号 二四号
一 製茶茶に關する化學的研究 第一報	全	一五号 九九号
一 納豆に就て	全	一〇二号
一 アタリレ蜜柑の甘味増加に就て	全	九七号
一 料理に由る養分の損失に就て	全	

文 部 省

- |                    |       |      |
|--------------------|-------|------|
| 一 納豆の細菌に就て         | 全     | 六七号  |
| 一 渋柿の甘酸に關する研究      | 全     | 五二号  |
| 一 米の品質に關する研究 第一報   | 全     | 五一号  |
| 一 清酒イーストの養料に關する研究  | 東京化学會 | 一八号  |
| 一 腸液の消化酵素に關する研究    | 農學會報  | 五六号  |
| 一 全                | 東京化学會 | 二三号  |
| 一 健康體に於ける消化酵素の効果   | 農學會報  | 一三三号 |
| 一 酒精の草食獸の消化力に及ぼす影響 | 全     | 一六一号 |
| 一 アミドの消化吸収に關する研究   | 全     | 一六四号 |
| 一 半搗米糠入米及大麥の消化試験   | 全     | 二四号  |
| 一 外國米の消化に關する研究     | 全     | 二二二号 |
| 一 玄米の消化が白米に劣る理由に就て | 全     | 二〇九号 |
| 一 白米玄米甘藷昆布椎茸の消化試験  | 全     | 二〇〇号 |
| 一 鱗翅類の消化酵素に關する研究   | 東京化学會 | 二三号  |
| 一 蚕兒の消化吸収と氣温との關係   | 農學會報  | 一六二号 |

文 部 省

著述目錄

一 中等農學	明治三十七年
二 耕種原論	同三十九年
三 蚕生理化學	同四十年
四 蚕軟化病	同四十一年
五 製茶論	同四十二年
六 農業教科書 一及二	同四十二年
七 農業教授法	同四十二年
八 農藝化學	同四十二年
九 細菌學	大正元年
一〇 農業教育及教授法	同二年
一一 家畜飼養用諸表	同二年
一二 農産製造學	同二年
一三 動物化學	大正二年
一四 牛乳論	同十一年
一五 食品辭典	同三年
一六 家畜飼養學	同三年
一七 食物の研究	同三年
一八 無機化學教科書	同三年
一九 有機化學教科書	同四年
二〇 食物	同四年
二一 農藝化學實驗法	昭和二年
二二 人生と食物	昭和七年
二三 食物の經濟	同七年
二四 食物化學	同七年
二五 農業學校の組織及其經營	同七年

文 部 省

二六	營養と食物	同十四年
二七	製茶化学	同十五年
二八	食物講話	同十五年
二九	栄養講話	昭和二年
三〇	栄養学	同四年
三一	食物辞典	同三年
三二	逸々農業教育	同三年

文 部 省



東京帝國大學名譽教授從三位勳三等 澤 村 眞

慶應元年六月十日生

東京府平民

現住所 東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町原宿一七〇番地

年 號 月 日 學 業 官 職 賞 罰 等 當該官衙等

明治廿二年七月十五日 東京農林學校農學部卒業

同 年十二月七日 文部省履申付

同 月俸三十五圓給與

同廿二年十二月廿四日 月俸金四拾圓給與

同廿四年三月廿八日 依願解雇

同廿六年八月八日 任高知縣農學校校長兼教諭

同 月俸金七拾圓給與

同廿七年三月廿六日 高知縣技師試補ヲ命ス

履 歷 用 紙 東京帝國大學

同廿九年十月廿七日 依願高知縣技師試補ヲ免ス

同 年十一月二日 任高知縣簡易農學校長

同 年俸八百四拾圓下賜

同三十年七月廿二日 任石川縣農學校長

同 年俸千二百圓下賜

同 年八月二日 任石川縣技師

同 敘高等官六等

同 年俸六拾圓下賜

同 年十月卅日 敘正七位

同卅一年七月十四日 休職ヲ命ス

同 非職ヲ命ス

同卅二年四月十七日 農業教員養成所講師ヲ囑託ス

同 手當一ヶ年九百圓ヲ給ス

同 農科大學 同 內務省 石川縣 宮內省 內務省 同 內務省 石川縣 內務省 內務省 石川縣 內務省 高知縣 內務省 內務省

(2)

同	同卅五年三月卅一日	任東京帝國大學農科大學助教授	同
同		敘高等官六等	同
同		本俸四級俸下賜	文部省
同		職務俸五百圓下賜	同
同	同卅七年五月十三日	陞敘高等官五等	
同	同 年八月五日	敘從六位	
同	同卅九年三月一日	兼任文部省視學官	
同		敘高等官五等	
同	同 年六月五日	日本俸三級俸下賜	文部省
同	同 年六月五日	職務俸金六百圓下賜	同
同	同四十年六月十七日	俸給令改正ニ依リ五級俸相當	
同	同四十二年四月卅日	陞敘高等官四等(助教授)	
同	同 年七月十日	敘正六位	
履歷用紙			
東京帝國大學			
同	同四十二年四月一日	俸給令改正	
同	同四十二年四月一日	俸給令改正ニ依リ五級俸	
同	同 年五月四日	本年四月十九日付願農藝化學研究ノ爲私費ヲ以テ英獨兩國へ留學ノ件許可ス	文部大臣
同	同 年六月十七日	御用有之白耳義國へ被差遣	
同	同 年八月二日	日本俸三級俸下賜	文部省
同	同四十四年六月廿六日	私費留學中之處本日歸朝	同
同	同 年六月廿八日	敘勳六等授瑞寶章	
同	同 年七月十日	職務俸金四百五十圓下賜	文部省
同	同 年十月廿八日	任東京帝國大學農科大學教授	
同		敘高等官三等 兼文部省視學官如故	
同		本俸九級俸下賜	文部省
同		農藝化學第三講座擔任ヲ命ス	同

(2)

同四十五年二月廿日敘從五位

大正元年十月廿八日 陞敘高等官四等 (文部省視學官)

同 二年六月十三日 兼任文部省督學官

敘高等官三等

同 三年四月十五日 東京大正博覽會審査官ヲ囑託ス

農商務省

同 三年六月十日 陞敘高等官二等

同 三年七月卅日 敘正五位

同 三年八月廿一日 賜本俸八級俸

文部省

同 四年一月卅日 敘勳五等授瑞寶章

同 四年十二月十日 大正四年勅令第五百五十四號ノ旨ニ依リ大禮

記念章ヲ授與セラル

賞勳局

同 五年五月廿五日 敘勳四等授瑞寶章

同 六年五月十二日 賜本俸七級俸

文部省

履歷用紙

東京帝國大學

大正八年三月廿七日 畜産工藝博覽會審査官ヲ囑託ス

大正八年四月一日 官制改正

大正八年四月一日 俸給令改正

大正八年四月一日 賜本俸七級俸

文部省

同 八年十月八日 賜本俸六級俸

同

同 八年十月廿日 敘從四位

同 九年五月廿六日 敘勳三等授瑞寶章

同 九年九月廿日 陞敘高等官一等

同 十一年二月二日 教員檢定委員會委員被仰付

内閣

同 十一年三月卅一日 賜本俸六級俸

文部省

同 十一年十月九日 補東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所

同 十二年六月廿五日 賜本俸五級俸

文部省

主事

不  
定  
一  
年  
一  
月

同十四年二月廿八日	敍正四位	内閣
同 年十月廿九日	賜本俸四級俸	文部省
同十五年三月卅一日	賜本俸一級俸	文部省
同 年三月卅一日	依願免本官並兼官	内閣
同 年四月一日	教員檢定委員會委員被仰付	同
同 年四月十五日	敍從三位	同

同十五年八月廿日	帝國大學令第十三條ニ依リ勅旨ヲ以テ東京帝國大學名譽教授ノ名稱ヲ授ク	内閣
----------	-----------------------------------	----

大正十五年十一月廿五日 昭和ト改元

昭和二年二月十日	教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同 年三月廿五日	教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同 年三月廿六日	教員檢定委員會臨時委員被免	同

履歷用紙

東京帝國大學

昭和三年五月七日	教員檢定委員會臨時委員被仰付	内閣
同 年五月七日	第三部部屬ヲ命ス	文部省
同 四年二月十二日	教員檢定委員會臨時委員被免	内閣
同 四年四月廿三日	教員檢定委員會臨時委員被仰付	同
同 同	第三部部屬ヲ命ス	同
同 五年三月六日	教員檢定委員會臨時委員被免	同
同 五年五月廿日	教員檢定委員會臨時委員被仰付	内閣
同 同	第三部部屬ヲ命ス	文部省
昭和六年一月四日	薨去	

賞賜局

文 部 省

内閣  
文部第一号

故澤村真毅勲件  
右 上奏書及進達候也

昭和六年一月九日

文部大臣田中隆三



内閣總理大臣臨時代理  
外務大臣野島壽幣原喜重郎殿

24



裏面白紙